

かけはし

学校生活アンケート結果

低学年

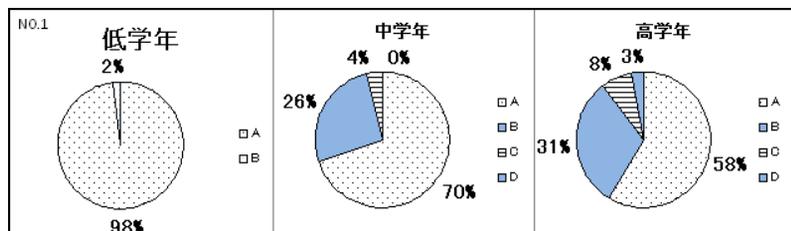
- A あてはまる
- B あてはまらない

中・高学年

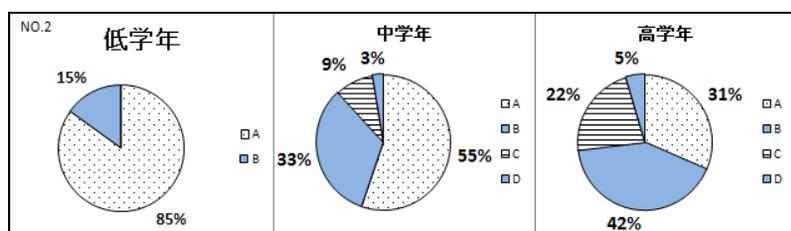
- A あてはまる
- B どちらかと言えばあてはまる
- C どちらかと言えばあてはまらない
- D あてはまらない

2学期に、全校児童を対象に学校生活についてアンケートを行いました。その結果を報告します。

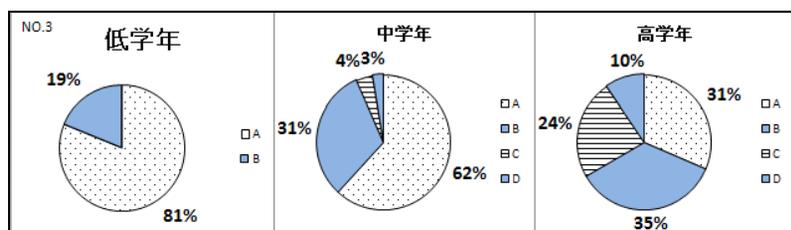
1 学校は楽しい。



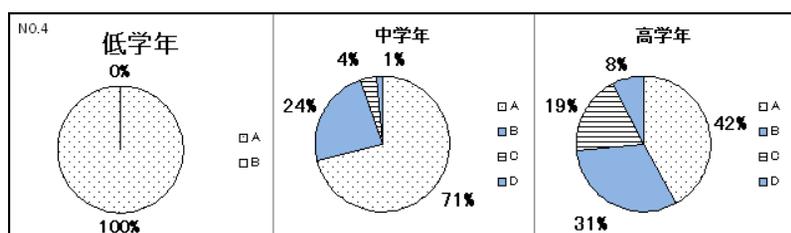
2 先生や友だちに進んであいさつをしている。



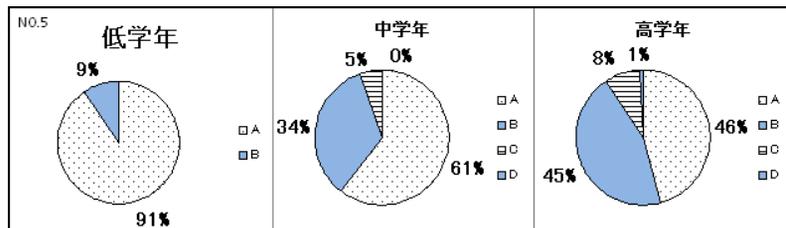
3 近所や地域の人たちに進んであいさつをしている。



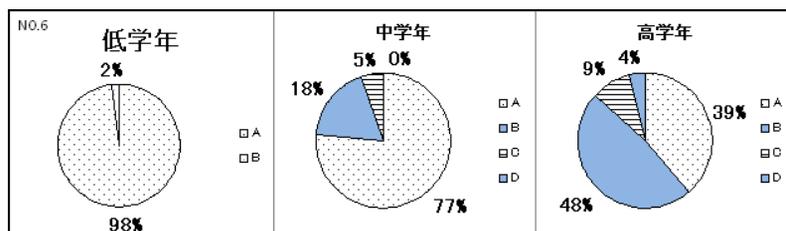
4 ときめきタイムや基礎基本の五夢りんチャレンジに意欲的に取り組んでいる。



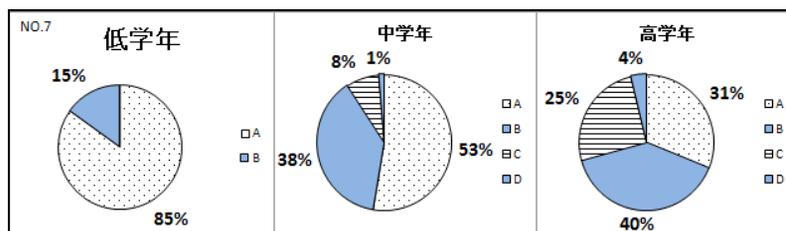
5 学習（授業）は分かりやすい。



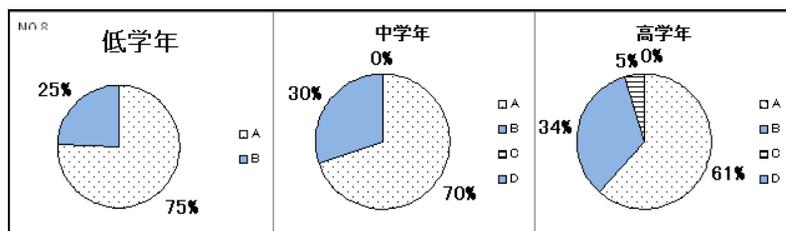
6 児童会活動や学校行事は楽しい。



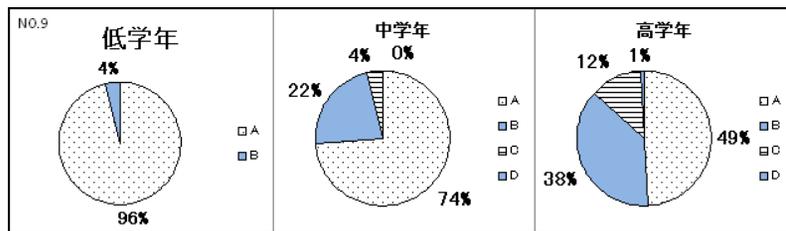
7 自分は、ルールやマナーを大切にしている。



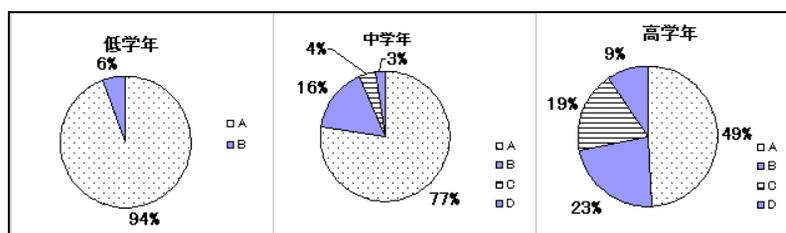
8 自分は、友達や周りの人を大切にしている。



9 自分は、友達や先生から大切にされている。

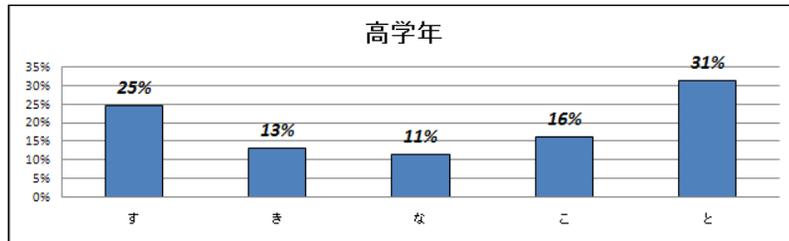
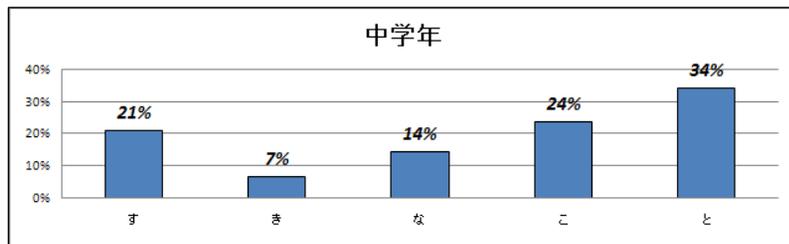
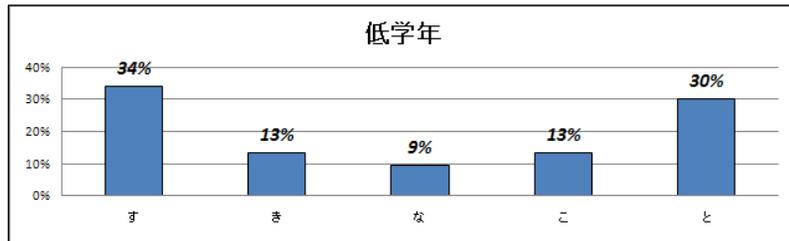


10 自分は、運動することが好きである。



11 ドリームボールのどのパワーがたくさんあつま られていますか。

すこやかパワー（体や命を大切にしようとする力）
 きっちりパワー（まじめに行動しようとする力）
 なぜなにパワー（すすんで学ぼうとする力）
 こんきパワー（めあてに向かって粘り強くチャレンジする力）
 ともだちパワー（なかまと助け合い、つながり合おうとする力）



○「学校は楽しいか」という問いに対し、低学年の児童は大半が「楽しい」と答えています。中・高学年児童は約半数の児童が「楽しい」と答えるにとどまっています。友達関係の多様化や学習の難易度等が原因となりこの結果に表れているのではないかと考えられます。困ったときには気軽に相談できる担任との関係作りや分かりやすい授業の工夫等を課題にして、一人でも多くの児童が「学校が楽しい」と言えるよう今後も取組を進めていきます。

○今年度は、あいさつについて項目を分けて質問しました。校内では以前に比べると進んであいさつできる児童が増えてきています。子どもたちは、学校でも地域でも変わらないように思っているようですが、立哨で目にする子どもたちのあいさつの姿は、学校で目にするものとは違っていました。交通指導に立っていただいている保護者や地域の方々にも進んであいさつできる児童がもっと増えるよう、校内でのあいさつ運動もさらに進めていきます。

○五條小学校の特色ある教育活動の一つである「ときめきタイム」「基礎基本の時間」ですが、高学年に進むにつれて徐々に意欲が低下している様子がうかがえます。五條小学校では学年ごとに系統立った学習の到達目標を設定しており、今年度より、金曜日にはチャレンジタイムとしての取組も始めました。高学年になればなるほど、その目標値も高くなりますので到達するには時間がかかりますが、「ときめきタイム」とともに集中する力と根気強く学習に取り組める力をつけ、できるようになる喜び（達成感）を体感させることで意欲につなげていきたいと思えます。

○学習の理解については、大半の児童は理解できていると答えています。全体を通して5～9%の児童が「授業が分かりづらい」と答えています。分かりやすい授業を目指し、教材教具の開発・板書や発問の工夫など学年一体となつての取組や、休

み時間や放課後を利用しての個別指導にも引き続き力を入れていきたいと思えます。一方、毎日の家庭学習の積み重ねも学習理解には欠かせません。各家庭に配布させて頂いております「家庭学習の手引き」を参考にご家庭での自学自習の点検にお役立ていただくと幸いです。

○児童会活動や学校行事に関しては、どの学年も「楽しい」と答えている児童が多く、学校の活性化にもつながっていると考えます。皆が待っていた体育館の完成は児童の活動の範囲をより広げてくれるものと思えます。また、各種行事におきましても保護者や地域の皆様の協力を得、多数ご参加ご協力いただき子どもたちの何よりの励みになりました。今後も授業時数に支障のない範囲内で児童会活動や学校行事の充実を図っていきます。

○規範意識を問う質問に対しては、「ルールやマナーを大切にしている」「ほぼ守っている」と答えた児童の割合が、低学年では85%、中学年では91%、高学年では71%となっています。小学校の6年間は他律期から自律期へと成長するときでもあります。人から注意を受けるからルールを守るのではなく、いかなる場所やいかなる時にも自分自身の力でルールを守れる人間に成長して欲しいと願っています。高学年の意識を高め、自らの襟を正すことで下級生に良い手本を示すことができるよう、地域の方々とも連携し、生活指導も徹底したいと思えます。今後も職員一丸となって粘り強い指導を続けていきます。

○8と9の設問については、低学年の児童のほとんどが「自分も周りの人を大切にしていると同時に周りの人からも大切にされている」と感じているのに対し、中高学年は「自分は周りの人を大切にしているが、周りの人からは大切にされていない」と感じている児童の割合が高くなっています。低学年に比べ、友達関係が複雑になっていること、成長することで、してもらうことよりもしてあげる立場になること、そして、注意される機会が増えていくこと等が子どもたちの心を小さくしてしまっているのかもしれませんが。わたしたち大人の言葉がけ一つで子どもたちの心も変わってきます。そのことを常に頭に入れて、職員一同、厳しい中にも温かな指導を心がけていきます。

○運動が好きかを問う質問では、高学年になるほど運動好きの児童の割合が少なくなっています。学年が上がるにつれ、習い事等の関係で運動する機会が減少していることと、体の変化に伴い積極的に体を動かすことに抵抗を感じる児童が増えていることが要因ではないかと考えられます。しかし、児童期の運動は体の成長のために欠かせません。心身ともにバランスのとれた人間の育成に向けて、体育的活動の更なる充実を図っていきます。今年度も、「五夢りんピック」（運動会・マラソン大会）や体育委員会主催の「五小チャレンジ」（キャッチボール・なわとび等の記録会）と実施することができました。今後も引き続き、体育的な取組を進めていきます。

○子どもたちにつけてほしい力が五夢りんのもつドリームボールです。学校生活の様々な活動を通してパワーを集め、夢に向かって進んでいきます。子どもたちのがんばりがよく現れていると思えます。

アンケートの結果を受け、今後とも職員一同子どもたちの教育のため努力を続けてまいります。ご家庭のなご一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。